

嘉田 由紀子氏



安全な水を手に入れないアジア・アフリカ地帯の水は、
腐排水で汚れてるわけでは
ありません。基本的にはトイ
レがない、つまり、汚物を
垂れ流して汚れているので
す。日本人には想像がつかない
かも知れませんが、尿尿の
ことは話にもならないとい
う、タフとする「尿尿忌避文
化」があります。

トイレがないということ
は、本当に大変です。学校に
もないんです。なす学校に行
けないか、トイレがないとい
うもの、つまり理由です。これ
は大事なありません。今のこ
ろは、

日本は、私が名付けた大の
ですが、尿尿親和文化です。
尿尿を必ずトイレで集め、水
の衛生を保つてくれています。
しかも、尿尿を分けるんです。
した、尿は大腸菌があつので
発酵させて畑に使用します。
尿は人間がいないので水蒸
気蒸発して使います。この便
めを使いました。この便が分
けは、尿尿親和文化の合理性
であります。

つまり、日本の農漁は水

な川だけでなく、小さな水路も覆った一地区の安全度マップも全国で初めて作らせていたが喜ました。

水には多様な価値があります。バランスを持って水と付き合うことが、リスク社会における水と人間の共生の仕組みになるだろうと思っております。



日本は國勢が外に水關して外國と利害關係が有る。そういう意味で、水に關しては日本はリダーになり得ることを知っていたに違いないと思ふ。そして、リダーになる資格があると思ふ。

武田信玄が造つた堰、三分一湧水は、堰いをぬめささい水を分かつ世の歴史にまで、水を分かつ合ふ運はこれが最古で、素簡に化しています。この技術を逆さにした堰が全国各地にあ

制度を確立した近代國家が、日本が唯一た奴家は、自負しております。

國河川を有する日本は、實務として水リソースを持続可能な國勢を構築しようとするのが、その結果としてそれが実現されるに至る。

武田信玄が造つた堰、三分一湧水は、堰いをぬめささい水を分かつ世の歴史にまで、水を分かつ合ふ運はこれが最古で、素簡に化しています。この技術を逆さにした堰が全国各地にあ

た、次の投資に向ひ

講演 日本の水技術によるアジアへの貢献

日本水フォーラム代表理事 竹村 公太郎氏

「どういふことですか、水ビジネスは、そんなに大もうけで受ける話ではないですか。でも、水に携わる人たちは、給水をもつてうシステムを、作らない限り、途方もない水を提供できず、みんな貧乏になる。水ビジネスの公営化は、公共で、わたしが望んでいるのは、ほかに、安定感で、水に關しては、今までの物を売るのではなく、買手が、水ではなく、買手が、一箱などではなく、買手が、自自治体を中心に、水の技術をとりま、め、安定的なシステムにして、チームで世界に、向かっていく。日本が、必必要なんです。バカに、受ける人、これしか、水は思っています。」

技術力の向上で国際社会に対応

水の危機管理や、水に関する日本の技術による国際協力について考えるシンポジウム「アジアの水と経済、地球の未来」が11月11日、大阪市中央区の大阪商工会議所国際ホールで開催された。「生命（いのち）の水」ビジネスを考えるというテーマのもと、誰かが講演。パネルディスカッションも行われた。また、りそなアジア・オセアニア財団が支援している環境事業の事例が発表された。

●趣旨説明●



人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授
阿部健一氏

世界で水が大きな問題になっておりまして、水は経済活動である機会損失を減らすために、水は共有財産である。水の「水」を念頭に置きながら、「生命の水」ビジネスについて考えていきたいと思います。

●主催者あいさつ●



リそなアジア・オセアニア財団 理事長

当財団は設立当初よりアジア・オセアニア関連の若い研究者に対して助成事業を中心に活動を展開してまいりました。セミナー事業、環境事業の支援も

阿部 健一氏



最近よく「ゲリラ豪雨」という言葉が聞かれます。過去のイタを見ますと、気温高い日には非常に強い雨が降っているんです。大気中に含まれる水蒸気の量は、温かい1度につき、約7%増えます。つまり、気温が高い日には空気の中に水分が多くなるために水分が凝集が促進して雨が降ると、大量に降る。温暖化の影響で、これから気温は確実に上がりますので、洪水も増えるでしょう。熱水も増えるでしょう。危ないところには住まない、危ないところに住むのなら、安全な家建てること、ようこそ、安全策が必要です。けれども、なかなかうまくいかなかったのが世界的な問題です。

米国の大手小売り、ウォルマートは、製品が環境増減及び影響を調べて納入させています。最近では水報告義務もあります。どのくらい水を使っているのか、水質をどう作られた製品なのかを問われる時代にならつてあつてです。これから水に投資できる額が減っていくなか

講演 家庭・企業・政府に求められる水リスク管理

東京大学生産技術研究所 教授 沖 大幹氏

で、水道管や施設を更新しながら、金儲けはどんどん増える。金儲けは、どんなにやってもいいことだ。近いうちに、恐らく逆転するといわれるのも不思議な問題です。水のりも濃くがあるなかで、全市政政変がやってくるのを待っているし、そうしていることを考えれば、そろそろ考えなければいけない時代が来ています。

「水の悲劇論者は間違っているが、役に立つ。」
水の楽観論者は正しい
が、危険だ。とう言葉
があまりと、国連が危
機かと思う。みんな
として未然に防い
とがよいんです。そうい
の意味では、悲劇論者
間違っています。逆に、
論はかなることも、水
論は正しいんですが、
で危険です。パナマス
というのが大事なわけ
ないかと思います。

